

≪ 第138回 エフエムぬまづ番組審議会 議事録 ≫

1 開催年月日 2021年5月14日(金)17:30より

2 開催場所 沼津市寿町8-28 メディアプラザ 1F 会議室

3 委員出席 委員総数 7名
出席委員数 6名

出席委員氏名 荻生 昌平
井上 純代
杉本 万千
保坂 典子
大川 皓平
向坂 真奈美

欠席委員氏名 千野 慎一郎

放送事業者側出席者名 澤井 宏幸
植田 航平

4 議題 聴取番組名「らじお話の会」

2021年5月6日(木)11:30~12:00 放送分

5 審議内容

(事業者側:植田) 定刻になりましたので、只今から第 138 回番組審議会を開催致します。本日、千野委員は都合により欠席となりますが、委員総数の 2 分の 1 以上の出席となりますので、番組審議会は成立致します。本日、ご審議頂く番組は、毎週木曜日、午前 11 時 30 分から 12 時まで放送している番組「らじお話の会」となります。この番組は、2007 年の春スタートし、現在まで 736 回の放送を数えます。様々な物語を朗読、朗読の他には、リスナーの思い出に残る曲をお届けし、懐かしい音楽を聴きながら、ゆったりした物語の世界を愉しんでもらいます。それではよろしく申し上げます。

(番組視聴)

(荻生委員長) それでは番組審議会を始めます。それでは保坂委員から意見、感想をお願いします。

(保坂委員) 最近はおオーディオブック等もあるので、このような番組は作業しながらでも聴けて、また、読んでいる方がとても上手で情景が浮かんでくるような読み方をされていたのでとても良かった。

(杉本委員) 最近は何を見ることがおっくうになってきたということもあるが、耳から何かをしながらでも聴けるというのは、いいなと思った。かかった曲も昔聞いていた懐かしい曲でいいなという感じで聴かせて頂いた。

(井上委員) この朗読をしている方はプロの方か？

(事業者側:植田) 基本的にはこのような活動している方なので、プロと言って良いと思う。

(井上委員) 以前同様の番組を審議したことがあるが、その時か、個人的にラジオで聴いた時は曖昧であるが、以前は読んでいる方がとても素人っぽかったので、以前の審議会の際は、ずっと聴いている気にはなれないと述べた記憶がある。素人の方がボランティアとして朗読するのであれば別かもしれないが、放送でやるにはある程度の朗読力のある方を出して欲しいと言った経緯があり、今回も正直期待しないで聴いていたが、今回の方は、声も読み方もとても上手なので、この方の話の仕方だったら聴くかなと思った。但し、集中して聴かなければならないので、車の中で聴く人には 30 分は長いのではないかなと思う。思い出の一曲は、聴く人の立場によって、受け取り方が色々だと思う。今日の朗読された方はとても上手だったので、このレベルの方の話を聴きたいと思う。

(向坂委員) あまり本を読まないなので、耳で集中して楽しく聴けたが、集中力があまり無いからなのか長いと思った。テレビのドラマとかであれば、途中で CM が入り、そこで一旦休憩ができる。今回の朗読では、最後に掛けた曲を合間に入れても良いのかなと思った。

(大川委員) 朗読自体は全く問題は無く、テンポもあれ以上ゆっくりだと間延びしてしまうので良かったと思う。但し、この内容では一区切りが長い。今回、全 12 回で一冊を朗読したとのことだが、もう少し(回数が)長くなってもいいから、1 回を 3 分割にする位で構成してもらえれば、長く聴いていても入ってくるのではと思った。このような朗読番組はメディアにしてまとめて聴くときはすごく良いと思う。ですので、夜などゆっくり聴ける時間にまとめて再放送してもらえると良いと思う。あと、最後が突然終了したが、来週からは何をやるかなど、次回予告を入れたりした方が興味を持ってもらえるのではないかな。

(井上委員) 次回の予告を入れる案は良いと思う。少しでも興味を持った方が聴いてみようと思ってくれるかもしれない。

(荻生委員長) 聴いていると長く感じたりしていると思うが、人間というものは10秒もすると飽きてきてしまう。飽きてしまうものをどう繋げていくかがテクニックである。テクニックなしでしゃべってしまうものはいけないと思う。ただしゃべってその情景が伝われば良いのではなく、ラジオの放送は表情も無いし、ビジュアルも無いから、言葉しか伝えることが出来ない。人を引き付けて聴いてもらうというテクニックが無いといけない。放送というものは、言葉を電波に乗せて伝えるのが原点、ただしゃべれば良いのでは無い。その辺で朗読も変わっていくのではないか。クリアに正確な発音でそれが言葉として正確に伝わっていくか、それが人を引き付けていく一つの原点であると思うが、それが現在失われつつあるのではないか。発声から、この放送に乗せるという原点を考えていかないと意思が伝わってこない。それは放送の技術かもしれない。朗読も同じで、「言葉を伝える」それが原点だと思う。飽きないように20～30分繋げていく方策が必要なのではないか。朗読もアナウンスも同じで、声の発音・発声など基本的技術をきちんと身に付けたうえで放送に臨むことが必要である。言葉の魅力や発声が大事になってくる。

(事業者側:植田) 朗読番組というものはFMで放送するにはかなりレベルの高い技術を要する番組であると思っている。感情を込めて、読み手として想いを持って読まない相手には伝わらないものだと実感した。アナウンス技術の向上が必要なパーソナリティーがまだまだいるので、レベルを高めて良い放送ができればと思う。

6 審議会での意見についてとった措置について

各委員から頂いた意見や感想については、今後の自社制作番組に活かし、より良い番組作りをする検討材料とします。

7 審議会の内容の公表

公表の方法 自社ホームページにて公表

(http://www.coast-fm.com/aboutcompany_council.html)

公表内容 番組審議会議事録

公表年月日 2021年6月21日

8 その他の参考事項

次回番組審議会は、2021年7月9日(金)17:30より開催

以上